

「夢と感動のスポーツ推進協創プロジェクト」 第2回推進会議の概要について

「夢と感動のスポーツ推進協創プロジェクト」の第2回推進会議を、平成25年11月21日（木）に開催しました。

第2回推進会議には、6名の委員のうち5名の方々にご出席いただくとともに、会議の進行を補助するファシリテーターとして国立大学法人三重大学教育学部教授の杉田 正明氏にご出席いただきました。

なお、第2回推進会議の概要は、以下のとおりです。

「夢と感動のスポーツ推進協創プロジェクト」委員及びファシリテーター

※敬称略、50音順、カッコ書は役職

伊藤 亜衣美（三重バイオレットアイリス
選手 ハンドボール）

北畑 亨（熊野市観光スポーツ交流課
スポーツ交流係長）

清水 栄嗣（NPO法人伊賀フューチャーズ
クラブ理事長）

辻 正敏（株式会社辻工務店取締役社長）

堀越 英範（三重県高等学校体育連盟理事長）

前田 浩司（三重県障害者スポーツ協会
専門委員会 委員長）

※前田委員はご欠席

ファシリテーター

杉田 正明（国立大学法人三重大学教育学部
教授）

＜推進会議の進行概要＞

会議の大まかな進行は以下のとおり

開会 13:30

- ・スポーツ推進局長あいさつ

概要説明

- ・平成25年度第1回推進会議
- ・平成25年度上半期「プロジェクト」の成果と残された課題
- ・事業改善に向けた有識者懇話会
- ・地域スポーツの推進
- ・障がい者スポーツ

意見交換

- ・みえのスポーツを支える人づくり
- ・スポーツによる地域活性化

今後のスケジュール

閉会 15:30

（スポーツ推進局長あいさつ、県事業の説明）
冒頭、世古 定スポーツ推進局長から委員の皆さんに、本日の開催趣旨等について説明しました。

また、「夢と感動のスポーツ推進協創プロジェクト」のプロジェクトを構成する2つの実践取組における本年度の取組の進捗状況について、事務局職員から説明しました。



※2つの実践取組

- ①「スポーツによる地域の活性化」
- ②「スポーツを支える人づくり」

(プロジェクト推進についての意見交換)

続いて、杉田教授の司会により、プロジェクトの推進に向けて、次の2つのテーマに基づき意見交換を行いました。

みえのスポーツを支える人づくりについて
スポーツによる地域の活性化について

各委員からは、日頃の活動の中で感じる課題を踏まえた意見や提案をいただくなど、活発な意見交換が行われました。

委員からの主な意見

みえのスポーツを支える人づくりについて

- ・ 今回の国体の結果を受けて、ジュニア選手の育成に注力して取り組む必要があると感じる。特に、ジュニア選手の県外流出は、大きな課題ではないか。
- ・ 中学校体育連盟の県大会で優勝した阿山中学校の新体操のメンバー全員に、県外の私立高校から誘いがあると聞いている。このことは、国体順位にも直結することでもあり、ジュニア選手の県外流出を防ぐ方策が必要である。
- ・ ジュニア選手の県外流出を防ぐのであれば、県内の高校において優れた指導者を配置するなど、選手を育成できる環境を整えることが必要である。
- ・ 県選抜を作り、小学校から高校まで一貫して指導することにより、メンバー全員を県内にとどめるようにしてはどうか。
- ・ 大会の結果や選手の存在を県民に周知し、県全体でスポーツを盛り上げる機運を作ることが必要である。そのことで、三重県に残って頑張ろうという気持ちになれる。

スポーツによる地域の活性化について

- ・ 現在、熊野市では、25くらいの大会・合宿を誘致することで、ソフトボール、ソフトテニスを中心に年間3万人位が宿泊し、地域の活性化に寄与している。

- ・ スポーツツーリズムの一環で、廃校を利用してスポーツ合宿を誘致するとともに、校内の教室を総合型地域スポーツクラブの文化教室として活用するなど、スポーツと文化の融合を目指す拠点施設とすることを、伊賀市に提案している。
- ・ 広報活動は大切である。スポーツに特化したサイトがあるといい。県内のスポーツイベントを把握し、カレンダーを作るなど、情報の収集・統合・発信を図ってはどうか。
- ・ 海外では、スポーツボランティアはゲームメーカーと呼ばれており、一つの文化になっているが、日本でのスポーツボランティアへの参加率は8～9%くらいと言われている。三重県でも、大規模大会の開催を見据えて、スポーツボランティアの養成に積極的に取り組むべきである。

その他

- ・ 条例を制定しただけにならないよう、いかに実行するかも考慮すべきである。
- ・ スポーツボランティアの活用や商工団体との連携など、県民、企業が自発的に取り組む視点が必要である。
- ・ 条例またはアクションプランにおいて、数値目標を設定することにより、明確に評価ができるため、評価の機能を入れるべきである。
- ・ 国、県、市町が一体感を持ってスポーツの推進に取り組むことが重要である。

など



次回（第3回）の開催予定

来年3月中旬に第3回推進会議を開催する
予定です。